

# 松山駅周辺デザインコンセプト（案） - コンセプト -

## 松山駅周辺 整備方針（松山駅広場等整備基本計画案より）

整備方針

### （１）駅東西の性格を踏まえた交通結節機能の強化

- ・東西広場への適切な施設配置
- ・バリアフリー・ユニバーサルデザイン
- ・車両動線の分離
- ・便利で安全な歩行者動線の確保
- ・将来的なモビリティ変化への対応
- ・サイン・情報システムの導入

### （２）県都の玄関口らしさを多面的に持つ 高質な空間の創出

- ・象徴的な見通しの確保
- ・緑の連続性の創出
- ・伝統素材や地産材の活用
- ・おもてなしの空間づくり

### （３）駅まちの拠点の形成

- ・駅とまちをつなぐ広場の形成
- ・交流拠点・居場所の創出
- ・自転車・歩行者ネットワークの形成

### （４）非常時に備えたオープンスペースと 情報提供機能の確保

- ・オープンスペースの確保
- ・情報提供機能の確保

## 駅西口

### ● 駅西側エリアの特徴

- ・駅近くは、狭小で入り組んだ道路の沿道に、低層の戸建て住宅や中低層の小規模共同住宅が多数立地。
- ・松山総合公園が位置し、その西側には津田山、垣生山などの緑が連なり、瀬戸内海へ繋がる。  
山裾の平坦地に住宅や農地が広がる落ち着いたエリア
- ・齋院地区などに、長屋門など古い町並みが残る。

### ● 駅口・駅前機能

- ・一部の交通結節機能（JR～バス・タクシー、一般車送迎）
- ・西側住宅地の環境空間機能（公園等の溜り等）の一部
- ・西側市民、郊外居住者を中心としたアクセス

### ● 基本方針

- ◇「旧村・郊外に向けた、抜けのある大らかな構え
- ◇「郊外の地域資源・素材の利活用による個性化」
- ◇「生活の駅としての、安全で人中心の歩行空間の実現」

※郊外の伝統的な農村文化を表現

注）城下側（東側）のイメージを使わないように配慮。

※生活空間の一部であることを考慮した、ヒューマンスケールの駅まち空間を目指す。

### ● 素材・空間イメージ（キーワード）

- ・素材：木（マツ、スギなど）、腰板壁・漆喰など
- ・空間：住宅地や近隣公園、街路等と繋がる細やかなアプローチ空間  
長屋門、農漁村など、落ち着いた雰囲気のある空間



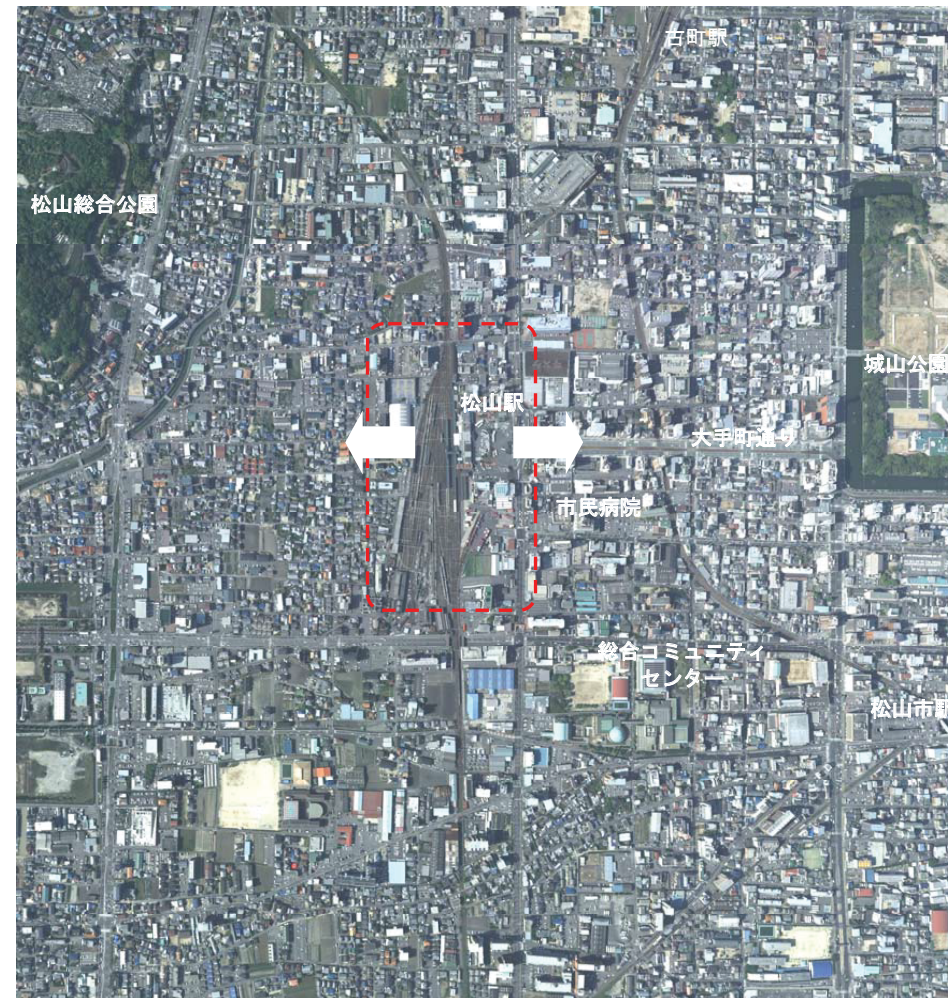
## 共通

### ● 共通素材

- ・鋳物（県都の拠点としての品格づくり）
- ・木・緑（マツ（松山の名の由来）、ヒノキ（媛ひのき）、スギ（媛すぎ）など）

### ● 基本フォント：現在使用しているフォント（隷書体）など

### ● 広場の舗装案：石畳など（※市施工箇所）



出典：国土地理院ウェブサイト（<https://mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do#1>）をもとに加工。※2010年撮影

駅口名称の案

【西口】海手口、瀬戸内海口など ← → 【東口】松山城口、道後口など

## 駅東口

### ● エリアの特徴

- ・駅近くは、宿泊施設や共同住宅等の比較的高層の建物と店舗が混在するほか、アミューズメント施設や市民病院、コミュニティセンターなど、区画の大きな施設が点在立地。  
奥には商業・業務施設の集積地が広がり、観光地も立地。
- ・駅前から直線に延びる大手町通りには、中央に路面電車が走り、城山公園の緑と石鎚山に連なる山並みが遠望される。

### ● 駅口・駅前機能

- ・県都の陸の玄関口（都市の拠点形成の場）
- ・多様な交通処理機能（結節、収容）
- ・交流機能（待ち合わせ、賑わい）
- ・サービス機能（情報提供等）
- ・防災機能（活動拠点等）
- ・東側市民、来訪者を中心としたアクセス

### ● 基本方針

- ◇「旧城下町・大手町に向けた、風格のある空間づくり」
- ◇「松山城・堀之内に繋がる緑の軸と、県都らしさを体現する地域素材の活用」
- ◇「駅まちの新たな活動空間を広場で結ぶ歩行者ネットワーク」

※松山城関連及び県下全域の優れた県産品等素材を活用

※大手町通りと繋がる駅まち空間と横軸空間による拠点施設や交通広場との接続による利便性の高い空間づくりを目指す。

注）駅まち空間は、姫路駅と差別化を図る。

### ● 素材・空間イメージ（キーワード）

- ・素材：瓦（天守閣）、石、櫓、門、漆喰、水（堀）、土塀、並木（サクラ、イチョウなど）等
- ・空間：大手町通り・城山公園に繋がるダイナミックな空間  
賑わいを予感させる空間

